

特集 次世代を拓く整形外科教育

■ 編集にあたって

医療の高度化と社会構造の変化が加速する現代において、整形外科領域における教育のあり方は大きな転換期を迎えています。少子高齢化に伴う疾患構造の変化、医療デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展、さらにはジェンダーや働き方改革に象徴される価値観の多様化など、従来の教育モデルのみでは十分に対応しきれない課題が顕在化しています。こうした時代にあって、整形外科はこれまで以上に教育に力を注ぎ、将来を見据えた人材育成に主体的に取り組む必要があります。とりわけ重要なのは、卒後教育にとどまらず、医学部学生の段階から整形外科の魅力と社会的役割を的確に伝え、早期から教育に関与していく姿勢です。運動器医療の重要性を広く認識してもらうとともに、臨床・研究・社会貢献を担う人材の裾野を広げることが、今後の発展に直結すると考えられます。

整形外科は、急性期から慢性期、予防から再建、さらには運動器リハビリテーションにいたるまで幅広い領域を担う総合的専門分野です。その教育には、臨床能力や手術技術の習得に加え、論理的思考力、倫理観、チーム医療への理解、さらには人工知能（AI）を含むデジタル技術の活用といった新たな能力の涵養が求められています。また、エビデンスに基づく医療を実践するための研究マインドの醸成や、国際的な視野をもつ人材育成も重要です。さらに、教育を担う側の役割も変化しています。指導医や教育者には、知識や技術の伝達にとどまらず、キャリア形成の支援やメンタルヘルス・働き方への配慮を通じて、多様な人材が力を発揮できる環境整備が求められています。

本特集号では、「次世代を拓く整形外科教育」というテーマのもと、専門医制度、診療教育、手術トレーニング、AI・デジタル技術の活用、キャリア支援、リーダーシップなど、多角的な視点から整形外科教育の現在と未来を俯瞰したいと考えました。本書の刊行にあたり、全国の第一線でご活躍され、整形外科教育に深い見識と豊富な経験を有する先生方にご執筆をお願い申し上げました。ご多忙の中、快くお引き受けいただきました先生方に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

本書が、日々の診療と教育に携わる整形外科医の皆様へ新たな視点と示唆をもたらし、次世代の整形外科医育成に資する一助となることを願っております。

京都大学整形外科教授
松田 秀一